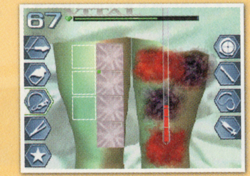
▼名称
## ドレーン
*Drain*

◎扱い方
患部をタッチし、管に沿うように上方向にスライドさせる

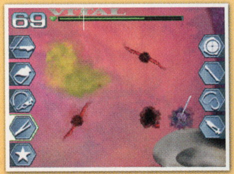
患部を覆っている血だまりや各組織の細胞間にある液体成分を管を使って吸引する器具。吸引を行ないたい患部をタッチして管を出現させたら、管に沿うように上へスライドさせると吸引が行なわれる。タッチペンを画面から離したり、スライドさせても管は動かないため、べつの患部を処置する場合は再度タッチする必要がある。


患部をタッチし、少し上にスライドさせてタッチペンを固定しよう。タッチペンを画面から離すと吸引を止める。

▼名称
## ピンセット
*Forceps*

◎扱い方
［つかむ］患部をタッチし続ける
［ 運ぶ ］患部をつかんだ状態のまま、続けてスライドさせる

切除した腫瘍や異物をつかんで摘出する器具。つまみたい場所をタッチし続けると異物をつかむ。そのままの状態でスライドさせれば、つかんでいるものを運ぶことができ、タッチペンを画面から離すと異物をその位置で離す。ただし、一部の術式ではつまんだものを一定の位置まで運ぶと自動的に離すことがある。


異物をタッチし続けると、ピンセットで異物をつまむ。その状態でスライドさせれば異物を動かすことができる。

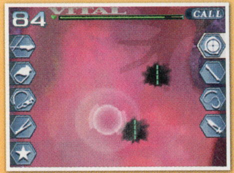
▼名称
## エコー／ルーペ
*Ultrasound / Magnification*

◎扱い方
［エコー］術野をタッチする
［ルーペ］術野をタッチしたまま、続けてスライドさせる

ふたつの機能が備わった器具。操作方法で使い分けることができるが、コマンドの性質上、エコーの効果が必ず発動する。各機能については以下のとおり。

【エコーの機能】
臓器内に隠れている病巣を探知したり、その影を表示させる機能を持つ。タッチした部分に2本のリングが広がり、そのリングの範囲内に病巣やギルスが潜んでいると、それらが映し出される。ただし、リングのどの位置で表示させたかで表示時間が異なり、内側のリング内で表示させた患部はしばらく表示されるものの、外側と内側のリングのあいだで映し出した患部は、リングのエフェクトが消えるとその影も消えてしまう。

【ルーペの機能】
術野が移動可能な場合のみ使用できる機能で、画面をタッチし続けると矢印が表示される。その際にスライドさせると、その方向に術野が移動する。表示される矢印は四方向のみだが、斜めにも移動可能だ。ちなみに、移動できない方向があると、矢印が黒色で表示される。


エコーを使うとタッチした位置に２本のリングが広がる。リングのどの位置で表示させたかで表示時間が変わる。

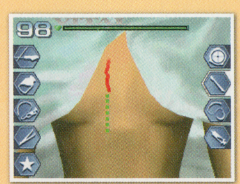

ルーペを使うときは矢印を表示させてからスライド。画面からタッチペンを離さなければ、続けて入力が可能。



▼名称
## メス
*Scalpel*

◎扱い方
患部をタッチしたまま、続けてスライドさせる

皮膚の切開や患部の切除などに使用する器具。タッチしたまま続けてスライドさせると、その位置に赤色の線が表示され、その部位にメスを入れる。切開の必要がある部位にはガイドラインが表示され、ライン上にあるすべての点にメスを入れれば切り取りに成功する。異常のない部位にメスを入れると、まれに裂傷（33ページ参照）が発生する。


メスを使うと赤色の線が表示される。使い続けるとバイタルが減少するので無闇にメスを入れるのは避けよう。

▼名称
## 針と糸
*Stitches*

◎扱い方
患部をタッチしたまま、続けてジグザグにスライドさせる

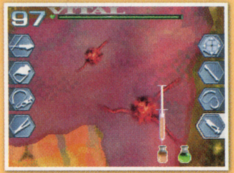
大きな傷や切開した患部、接合部などを縫い合わせるときに使用する器具。画面をタッチしてスライドさせると、青色の線が表示され、すぐに折り返し地点までを直線にした白色の縫合線に切り替わる。タッチペンを画面から離すとその縫合線に沿って患部を縫う。ただし、患部ごとに縫合の条件があり、条件を満たしていないと縫合されない。


ジグザグに線を描いてから、タッチペンを離す。その時点で患部を正しく縫えていれば縫合処置が行なわれる。

▼名称
## 注射器
*Syringe*

◎扱い方
［薬剤の吸引］ビンをタッチしたまま、続けて上にスライドさせる
［薬剤の投与］患部をタッチし続ける

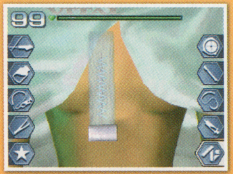
バイタルを回復する回復剤や病巣を沈静化させる液体を投与する際に使用する器具。まずは、投与したい液薬のビンをタッチしたまま続けて上にスライドさせて液体を吸引する。このときスライドさせた距離で吸引量を変えることが可能。吸引後は患部をタッチし続けると吸引した液体を投与する。投与を止めたいときはタッチペンを離そう。


注射器のアイコンを選択すると、画面右下に液薬の入ったビンが出現。投与する患部に適した液体を吸引しよう。

▼名称
## 保護テープ
*Bandages*

◎扱い方
患部をタッチしたまま、続けてスライドさせる

術野を閉じたあとに、縫合した部分を保護する際に使用する特殊器具。閉創処置で縫合を行なうと、画面右下に器具アイコンが表示される。アイコン選択後は、縫合痕の端をタッチしたまま続けてスライドさせると、その位置まで保護テープが伸びるので、保護テープを切り離したい地点でタッチペンを画面から離すとテープを貼り付ける。


開始位置を選択すると貼る位置は変更できないが、保護テープを貼り付けるまでは、その長さを何度でも調整可能。